

ないのであるがその中に神の心が生じ合ふ。するとその姿そのまゝが神の姿となるのである。本覺の如來はそこに顯現すると共に最早單なる佛ではない。この農民達夫婦の心を安らかに楽しいものにしてゐるのである。即ち救済教化して止まざる佛は現出するのである。「給仕第一は萬行の宗」と宜なりと信ぜざるを得ないであらう。

生死一切を法華經にまかせて、佛へ給仕出来るものこそ、眞の宗教を味讀し、生ける宗教を摘んでゐる人である。されば佛へ給仕して倦まざるものこそ世間苦を離れて生きぬく久遠の聖者であらう！。

## む す び

徒らなる合理論は鬭争の巻を繰返してゐる。吾等はあくまでまろく従順に大信に住して三世救済の本化の行法に精進しやう。更に附言せば近時流行の科學性も、ともすれば物質的科學性に流るゝやうであるが精神的科學性を提唱したい。精神的科學性とは無形的價值論におへて決定さるべきものと思ふ。寂寥たる秋は如何なる人をも詩人となし哲學者にして行く、草を枕に秋の實相を科學して見やうか。更に人生とは？苦とは？宗教とは？……求道の旅は何處までつづく……人生とは苦なり、その苦しい旅こそ人生を意義づけてゐる楽しい旅である。それ

は宗教と云ふ慰ひの宿があるからであらう。今日日本は世界的日本に非ずして日本の世界となりつゝある。宗教も亦日本の世界宗教によつて全人類は救済さるゝものと思ふ。日蓮大聖人の氣宇もこの實現にあるのだ。立て！。そして元氣で苦しみ抜こうではないか。

## 俳 句

中 村 貫 一

短夜をふと目覺めては征く身なり  
麥の秋征く身を語りかくも來し  
古寺の地獄繪あせてかびにほふ  
朝櫻菊の紋幕重りて有り（靖國神社）  
おぼる夜の床に花なき花器二つ  
五月雨の時計救心の音となる  
隠元の花紫に梅雨かな  
古池の水の青みや南風  
日蝕へ兵馬汗する思ひふと  
水苔に見せし杭あり水涸るる